

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和5年7月10日

三田市議会議長 松岡 信生 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

| | | | |
|-------------------------|---|-----|------|
| 会 派 名 | 新政みらい | 代表者 | 厚地弘行 |
| | | 議員名 | 厚地弘行 |
| 派遣者氏名 | 厚地弘行・北本節代・佐貫尚子・中田哲 | | |
| 視察先及び 調査事項 (調査目的) | 岡山県浅口市 無料バス「浅口ふれあい号」 広島県福山市 イエナプラン教育について | | |
| 日 時 | 令和5年7月6日(木) ～ 7日(金) | | |
| 視察先対応者 | 浅口市議会議長伊澤誠 企画財政部長石田康雄 課長富田正樹 地域創造課主幹仁科道也 常石ともに学園校長甲斐和子 教頭坂口憲治 | | |
| 【調査結果概要】 | | | |
| 別 紙 | | | |

視察先：岡山県浅口市

視察目的：無料バスについて

視察概要：浅口市役所において

伊澤誠議長、石田康雄企画財政部長、富田正樹課長
仁科道也地域創造主幹より説明を受けた

【事業の背景】

市内の井笠鉄道(株)が経営破綻し、平成24年にバス路線が廃止されたことによる。平成22年から既に市民アンケートを行い、公共交通の課題整理をはじめている。23年2月市営バス無償の試行運行を行うために業者選定し、4月から開始する。

【事業の内容】

アンケート結果に基づき高齢者の買い物と病院への交通手段の確保として、交通空白地域を最小限にし、地域をきめ細かく回る市営バス6路線を実施することとなった。している。バスはハイエース12人乗りを6台市が購入。保険、ガソリン代等は市が負担し、運転などの運行を2社に業務委託する。乗降者がいない停留所は通過するワンマンバス方式。

現在は週3回の運行であるが、当初は各路線を週2回で始めている。一日あたり4便から7便。バス停を表示する工作物はなく、床にペインティングしている。

乗車の多い路線にはその区間のみ2台の連車で運行。

年間運行経費は2,054万円（うち業務委託費1,050万円）

年間のべ利用者数30,990人、一便あたりの乗車数6.1人、乗車率39.7%

コロナ禍中は利用者が減っていたが、今年くらいから盛り返している。

運行の法的位置づけは、道路運送法によるものとせず白ナンバーでの運行である。

【質問に対して】

道路運送法の有償運送にすれば様々な規制があり複雑になる。一方、

道路運送法外であっても法律に触らないように調査の必要はあるし、法律の改正には気を使っていかなければならないと説明があった。

【今後の課題】

床のバス停留場所のペインティングに色落ちが早いこと、便数を増やしてほしい、運行の曜日が限られる、家の前にもバス停留してほしいなどの市民ニーズがある。高齢者の増加に伴う福祉施策としての対応も検討が必要と考えている。また技術の発展による無人バスの開発も進んでおり、その進捗も見ていきたいと説明があった。また、主に高齢者が乗車するため、他の世代の人からは利用者が無料で行うのは問題があるのではないかとの意見もあるが、若い世代もいずれ高齢になると言うことの説明で今は納得していただいている。

【資料別途添付】

【所見】

高齢社会のなかで都市部以外での交通の便は重要であり、かつ無料バスという事で感心を寄せて視察に付いた。まずは無料バスに対する市の財政負担であるが、バス事業者への業務委託で1,050万円、その他に機械器具費、燃料費、修繕費、保険料など合わせると全体で約2,000万円の負担である。市の規模によるが2,000万円という経費が維持できる範囲であり、市民の生活に必要なサービス事業であると理解した。三田市は浅口市の3倍の規模であるとする市負担6,000万円と言うことになる。

次に路線内容であるが、アンケートにより必要とされる地域6路線を引いたことは良いと思う。仮に三田市での事業を考慮に入れるとやはり6路線は必要になると考えるし、路線日も毎日の運行ではなく、週2回とか週3回がよいころではないかと思う。なぜなら毎日の運行を希望する市民がいたとしても毎日乗車する人はなく、空バスや少数乗車になりかねない。そうなるもまたバスの存続か廃止かの議論になるからだ。実際の運行状況では、一便あたりの乗車率約40%は良好と言えるのではないか。

どの路線もバス停が50か所程度あり多すぎると感じたが、運行の目的が地域を細かく走ることである。つまりバス停まで歩ける老人が減ってきていることの証でもある。そういう意味では誰でも乗れるバスではあるが、福祉的要素のバスと考えられる。通勤や通学の時間を急ぐ市民には利用は難しいだろう。更に道路運送法によらないことにより手続きの簡素化には料金を無料にする必要があったし、バス乗降時での料金の現金でのやり取りや事後清算という煩わしさからも解放されている。

浅口市の場合は既存のバス事業者の経営破綻で、市としての何かの対策は必要に迫られていたと言える。バス事業社への赤字補填か市の独自でバス路線の運行かである。浅口では一部でのバス事業への赤字補填もやっており、大半の部分は市の無料のふれあい号の運行となった。三田市ではニュータウンを中心に神姫バス路線が多くあるが、他の地域では本数も少なく、細かく巡回できるようにはなっていない。生活における車慣れはあるが、農村部、郊外でのバス利用は不便さもあり今後存続自体が困難になると思う。三田市が浅口市のような福祉的要素で無料バスを運行できれば良いと思うが、その場合既存の神姫バスの路線との関係の整理が必要となる。三田市が既に実施している高齢者への外出支援としての回数券、キップ等の補助事業で既に5,000万円を超える市の財政負担となっており、今後この負担額は増加すると考えられるので、この事業との関係も考慮に入れ検討する必要があると考える。

■基本理念

21世紀型『スキル&倫理観』を教育活動の中ではぐくみ、『行動化』ができる確かな学び

■福山 100 年教育が描く未来

→変化の激しい社会の中で、夢とローズマインド（思いやりの心・優しさ・助け合いの心）を携え福山で、日本で、世界でたくましく生き抜く。そして、環境・貧困・人権・平和・開発等、社会の様々な課題を自らの課題ととらえ、課題解決に向け周りの人々と協働して持続可能な社会を創造する。

■目指す子供の3つの姿

- ①自立⇒学ぶ面白さを実感し自ら学ぶ子
- ②共生⇒持ち味を活かしあい協働する子
- ③自己実現⇒自己を認識し、自分らしく成長する子

【スキル&倫理観】責任感を持つ・進んで取り組む・計画する・協働する・生み出す・プレゼンする・リフレクションする。

■学びの場での原則

- 教育活動は対話、遊び、学習、催しの4つの基本的な活動を交互にリズムカルに行う。
- 子供たちが互いに学びあい、助け合いができるように、年齢や発達状況の違う多様な子供たちを組み合わせさせたグループを創る。
- 一人でできる遊びや学習とグループリーダーが指示・指導する学習を交互に行なう。
- 学習の基本である経験・発見・探求とワールドオリエンテーションが中心。
- 子供の行動や成績の評価は成長の過程を見るという観点を大切にし、子供自身との話し合いをする形で進める。
- 何かを変えたりより良いものにする活動が大切。行動し、考え、繰り返すことを実践する。
- 教室は居心地がよく先生と子供たちがサークル対話、共同作業ができる環境を整える。

■異年齢集団でのグループ編成

- 1から3年生、4から6年生の3学年による異年齢集団を基本単位として教育活動を行う。
- ⇒年長者が年少者を助けたり、教えたりすることが日常的に行われる。
- ⇒個性や発達の程度の違いが当たり前のように受け入れられるようになる。
- ⇒教科学習では学年を超えた学びの展開が可能となる。

4つの基本活動

- ① 対話⇒対話を重視し、個人を尊重し信頼関係を育てる。
- ② 遊び⇒『遊び』そのものが『学び』であり、考える力や協働する力を育てる。
様々なシーンで子供が選択して『遊び』の時間・環境を創る。
- ③ 仕事⇒(ブロックアワー)⇒子供たちが学習計画を立て学び続ける力を養う。子供の状況に合わせた学習を進める。自立学習やインストラクション、学年の内容を超えた共通の問いについて考えることなどを組み合わせる。
(ワールドオリエンテーション)⇒生の題材から問いを見出し探求し続ける力を養う。教科の内容と関連した目の前の生きた問と向き合い異年齢集団による協働探求を進める。
- ④ 催し⇒子供たちが喜びや失敗の悔しさを分かち合いあう。運動会や学習発表会などの行事だけでなく、その週の学びをプレゼンや演劇にして発表し、他の学年や保護者、地域の方々と共有する。

【所見】

現地での視察でまず目についたのは一階の調理室の天井、及び廊下の天井も照明電気の配線が丸出しになっていることで、なぜかとたずねると、ともに学園開校のために多くの施設改修を行っているが、電気配線等も見えるようにしたほうが子供たちに現実がわかるのではないかと言う地域の人の考えがあったからだ。つまり学園づくりには地域の人の考えが多く入っていると言うことだ。施設改修のための経済的支援もあるし、学校の教科運営にも協力されている。

1年生24名、2年生25名、3年生24名、4年生21名、5年生12名、6年生13名、特別支援21名、全校140名に対して、教諭17名、看護、介助員、校務補助、事務員等は9名の全26名の体制。県からの加配もあり、岡山県のイエナプランへの理解・協力があるようだ。1年生から3年生73名を3クラスに分けると、1クラス20名前後で複数の学年が混じることになる。見学では10名程度の児童が先生を囲むように車座で、教室の前のグループと後ろのグループがあった。児童達はずっと先生の話の聞いているわけではなく、その場から離れるのも自由に行っている。

授業の様子として紹介されたのは、泥団子づくり、ひまわりの栽培、1リットルと0.1リットルの違いなどの授業風景だ。理科や算数や国語も織り交ぜて授業が行われる。生活に係わりのあることや、児童が勉強というものに堅苦しいものにならないようにされているように思う。もちろん教科数は全てこなしているとの説明。教諭の相当な工夫がいると思う。成績表はあるが、先生が個人の学習状況を主観的に表す程度のものである。

ともに学園の卒業生が中学校ではきはきと発言している風景を見ると、子供たちはすくすくと成長していることを感じるとは校長先生の話。自由な雰囲気の中で成長させたいと願う親は多く、市外からも入学希望はあるが定員内での入学にとどめている。他の学校で不登校になった子供はともに学園なら入りやすいのではないかと思うし、希望者も多い。中学、高校での学業がどのくらい進むのかは今後を見なければわからない。

3階図書室が広くきれいに改装されており魅力的だ。読書する児童が増えたと言う。改装では色々な場所で地域の人の協力が見られる。

複数の学年の授業の進捗について、全員の学力が確保できているのかどうか創造するには難しいが、私達の既成概念をはずせば理解できるかもしれない。例えば昔の寺子屋は多世代での授業であったことを想像するべきかもしれない。宿題についての質問をしたが、それも先生と児童の状況によって様々で、宿題をいやがる児童には出さない。また逆に理解の速い子供は上の年齢の子といたり授業を聞いたりしている。

いづれにしても魅力的な学校であることはまちがいない。授業の一律や学校運営の一律という枠から出て、多様な授業スタイルの一つとして考えて選択するのはとても有意義であると思う。常石とともに学園は設営から地域の協力が多大であったので、どこでもやれるかどうかは別の視点で検討していく必要があると思う。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入してください。

個人支給の場合、会派名[無会派は記入不要]、議員名[代表者名は記入不要]を記入してください。